産業現場において従業員の健康保持・増進に精力的に取り組む方々の産業保健活動をご紹介します。

今回お話を伺うのは

- 工藤康嗣 さん（ＴＤＫ株式会社(秋田地区)　ＴＤＫ健康管理センター　産業医）
- 高坂祐子 さん（曙ブレーキ山形製造株式会社　看護師）
- 東藤隆弘 さん（両備ホールディングス株式会社　衛生管理者）

# 働く人に寄り添いながら健康の大切さを発信し続けたい

●INTERVIEW●

ＴＤＫ株式会社（秋田地区）　ＴＤＫ健康管理センター　産業医　**工藤康嗣**さん

秋田県にかほ市は「風の街」としてその名を知られている。標高500ｍの仁賀保高原には、15基の風力発電機がそびえ立ち、日本海から吹く風を受け止める。

日本オリジナルの磁性材料「フェライト」の世界初の工業化を目的として、ＴＤＫ株式会社（昭和10年創立）の生産工場が、初代社長の出生地、にかほ市（当時は仁賀保町）で産声を上げたのは、昭和15年のことであった。以来、フェライトの生産技術を中心に、セラミック製品や応用製品を製造してきた。

現在、５工場で働く約1,900名の従業員の健康を守る拠点、ＴＤＫ健康管理センターは平成２年に設立されたが、センターの責任者、産業医工藤康嗣さんはその設計段階から関わり、現在に至っている。従業員の健康を見つめながら歩いてきた日々を語って頂いた。

## 根幹は「働く人々」

「私は大学卒業後すぐにＴＤＫに入社しました。その後２年半の臨床研修を経て産業医として着任しますが、昭和63年の安衛法改正を機に、従業員の健康確保と増進を目的として平成２年に健康管理センターを設立することになり、計画、設計の段階から関わらせてもらえました。平成４年には県内最初のＴＨＰサービス機関として認定され、10年間はＴＨＰに取り組んできました。従業員にとってはよい生活習慣づくりのきっかけになり、健康に関する考え方の向上に役立ったと思っています。

平成12年の「事業場における労働者の心の健康づくりのための指針」を受けて翌年にはそのモデル事業に手を挙げました。また、平成15年には職場復帰支援のモデル事業として手を挙げ、プログラムの推進を図ってきました。一つの事業場で、半世紀近い間、時代を反映したさまざまな事業に取り組んでこられたことに感謝しています」と笑顔がこぼれた。

現在スタッフは看護師４名、歯科医１名、歯科衛生士２名、事務方が１名、合計８名が工藤さん

を支える。歯科診療施設は２階にあり、光を採り入れた設計によって明るい雰囲気にあふれている。１階の放射線室は設備が充実しており、診療所としても十分に機能を果たしている。

「産業医の業務に一般診療が必要かという考え方もありますが、私自身は会社の中で従業員の病気や健康状態に一番初めに気付く人間でありたいという思いがあり、従業員対象の外来診療も行っています。ただ、最近は高血圧などの慢性疾患については地元の開業医の方々にお任せするようになり、今では急性疾患だけを診療しています。私が着任した頃は3,400名の従業員がおり、現在は６割まで減少しましたが、かといって産業医の仕事が４割減少したかというと決してそうではありません。メンタルヘルスの問題もあり、業務内容はますます多岐にわたっています。当然、変化に対応できる能力が求められますが、私はどんな時も、根幹は『働く人々』だということを大切にしてきました。私たち産業医は、『働く人々』にとって専門知識を有した頼るべき相談相手にならなければなりません。会社と従業員の接着剤として、できることはすべてやる、その思いはますます強くなります」。

## 健診の充実で早期発見を目指す

もちろん、センターの主要業務は健診であり、全員が対象の４～６月の定期健診、事後措置に二次健診と特定保健指導、年２回の特殊健診には延べ1,000名が受診、胃がん検診の受診者は年間1,000名を超える。加えて採用・入社時の健診や海外派遣健診、健康相談の面談等は随時行われている。とりわけ海外赴任者が秋田地区だけでも50名ほどおり、一時帰国者の健診が常時ある。

「産業医活動の半分は健診業務に費やされています。胃がん検診は月12日、５カ月にわたって受けてもらいますが、受診者が多いため朝７時半から受け付けます。８時には専門技師が来てくれますが、それまでは私が対応します。健診はやりっぱなしでは意味がないので事後措置、経過措置に時間をとられますが、内部で手間暇かけるからこそ、病気の早期発見や予防に役立っているのだと思います。例えば、胃がん検診はセンターができて以来実施していますが、胃がんで亡くなった人は１人しかいません。その方も前年度、未受診で早期発見には至らなかった方ですから100％いないといってもよいでしょうか。早期発見、早期治療が検診によって可能になるわけですから、正直少々しんどいなあと思うことがあっても、スタッフの協力や、外部スタッフの協力を得て従業員のニーズに対応した検診の充実を図っていきたいのです」。

## 仲間とともに

にかほ市はＴＤＫの街といってもよいほど、これまで市内全域に事業場を拡大してきた。ただ時代の波を受けて、このほど事業の再編成を行うことになり、同じ事業を展開している工場は統合されることになった。従業員は不安を募らせる。

「メンタル面でいろいろ問題も出てくるかと思いますが、秋田地区は全国の事業場に先駆けて、メンタルヘルス相談窓口の設置や役職者が気軽に参加できる講習会などを開いてきました。会社はもちろん、組合とも職場復帰支援の対策などを相談し合い、主治医意見書を作成するなど協力し合ってメンタルヘルス対策に取り組んできましたから、これまでの実績を基盤に、今後はますます社内でのコミュニケーションを強化していきたい。何か変化があったときに迅速に対応できる産業医でありたいです」と工藤さんは締めくくった。

ＴＤＫはスポーツが盛んで、なかでも社会人野球の強豪として名を馳せており、平成18年には都市対抗野球大会でみごと優勝を果たしている。全国大会出場のたびに、工藤さんも応援団として駆けつけ、アルプス席で声を嗄らしてきたという。大柄で、ひげがよく似合う工藤さん、確かに、応援団長の風格がある。

**会社概要**

ＴＤＫ株式会社（秋田地区）
創　　設：昭和 10 年
従 業 員：1,900 人
所 在 地：秋田県にかほ市

# 健康は自分で管理することが大切
# その意識を高めるために全力の日々

●INTERVIEW●

曙ブレーキ山形製造株式会社
業務課人事・総務係　看護師　高坂祐子さん

曙ブレーキ山形製造は、曙ブレーキ工業のグループ会社で主にブレーキ摩擦材の製造を手がけている。大きな工場に隣接する建物の一角、「医務室」と書かれた部屋が高坂祐子さんの仕事場だが、在室していることはあまりなく、入口に下げた「看護師行先連絡表」と書いたボードに居場所とＰＨＳ番号を表示して留守にし、時間がある限り工場を巡回している。そこで従業員が毎日付けている健康チェック表を見たり、休憩時間に声をかけたりして、常に皆と触れ合うことが高坂さんの活動スタイルになっている。

## 一人ひとりにアドバイス

同社の医務室は平成19年に開設された。高坂さんは看護師として20年ほど病院に勤務した後、豊富な臨床経験を買われて医務室に常駐する看護師として19年に入社。立ち上げから一人で取り組み、「産業保健の分野は初めてでしたので、医務室での対応の仕方や健診の進め方など、イチからグループ会社の先輩方に教えていただきました」と振り返る。

安全衛生担当者らの努力により同社の健康診断の受診率はすでに高かったため、高坂さんは健診結果に何らかの所見のあった従業員に対し、二次健診受診勧奨とアドバイスを行うことから実施。工場の係長や班長らの力を借りて対象者全員と面談することに励み、昼休みや帰宅前に医務室に顔を出してもらうなどして時間をつくり、二次健診受診率を100％にした。

夜勤のある同社では特定健康診断も行っており、２年ほど前からグループ企業全体で、入社時からの生活習慣病健診と、40歳から５歳刻みの人間ドックも導入。それらの結果が出るたびに、同様に面談を働きかけ、受診勧奨や保健指導を重ねてきた。

**会社概要**

曙ブレーキ山形製造株式会社
設　　立：平成４年
従 業 員：449名（平成24年７月現在）
所 在 地：山形県寒河江市

## 困ったときに役立つスタッフとして

新入社員研修の時間を少しもらい、「食事や睡眠などの話をします。ほとんど近所のおばちゃんのような感じですが（笑）、顔を覚えてもらい会話ができれば、その後の関係が違ってきますから」とコミュニケーションを大切にしている。常に工場を巡回するのも、ひと言でも会話をしたり、気になる従業員の様子を観察するためである。そうこうしているうちに、運動不足だった人が「サークルのバスケ部に入ったよ」、「食生活を改善しました」などと報告に来てくれることが増えてきて、「頑張っている人は褒めます」と嬉しそう。しかし、アドバイスをしてもなかなか実行しない人もおり、その場合は「将来、こうなってしまいますよ」などと厳しく接している。

「大切なのは、健康は自分で管理するという意識。やらされるのではなく、自分でやることです。私としては、必要としている人に必要なことを支援するスタッフ、あるいは、困ったときに役に立てるスタッフでいたいと思っています」。

他にも、グループで取り組んでいる『健康あけぼの21』の取組みを促進したり、健康部会と生活習慣病予防の啓蒙に励んだりと忙しいが、病院時代の精神科病棟・外来の経験も活かし、メンタルヘルス対策についても重視して講習会などを開いている。

「これからも今できることを実践していきます」と元気に語る。工場と医務室の間を今日も何度も行き来し、皆さんに声をかけていることだろう。

# 「思いやりの心」を第一とした職場づくりで社員の健康を支える

●INTERVIEW●

両備ホールディングス株式会社　人事部　衛生管理者　**東藤隆弘**さん

岡山県を中心に運輸・観光、情報、生活産業などを展開する両備グループに属する両備ホールディングス株式会社は、主に同グループの交通運輸・観光関連部門などを担っている。

東藤隆弘さんは、両備グループに入社以来、観光部門一筋だったが、７年前、両備グループ全体の人事業務も担当している人事委員会への配属と、『健康プロジェクト』のメンバーに加わったことを機に衛生管理者となった。今回は、自社やグループ全体の活動など広くお話を伺った。

## 健康づくりセンターと連携した健康活動

両備グループには、健康づくりセンター（以下、センター）という、従業員の健康および福利厚生を担う部門があり、センターでは、各主要産業の代表者と東藤さん、そしてセンター担当者とで『健康プロジェクト』を立ち上げている。健康プロジェクトでは、今年度の重点目標として「メンタルヘルス対策」と「労災二次健診の徹底」を掲げている。

メンタルヘルス対策は、自社の取組みとして、ストレスチェックを実施するほか、岡山産業保健推進センターから精神科の医師等を紹介してもらい、社内でメンタルヘルスセミナー等を開催しているそうだ。「昔に比べ、全社的にメンタルヘルスに対する問題意識が根付いてきました。今後は、『メンタルヘルス不調者への初期対応を学びたい』という声に応えて、産業カウンセラーの方とロールプレイングを交えた、初期対応を中心とした社内研修を行う予定です」。

労災二次健診については、運輸系部門への指導を特に厳しく行い、毎月の健康調査で問題がある場合は配置転換も行う。「幸い、グループ内には多くの職種があります。それぞれに合った仕事に就けるよう、どの部門も受け入れ体制を整えています」とのこと。また、ダイエットに成功すると、表彰状や記念品が授与される『両備健康塾』などの取組みで、脳・心臓疾患の発症予防対策、メタボリックシンドローム対策につなげている。

## ウォーキングで健康とコミュニケーションを向上

同グループでは、毎年10～11月にウォーキングキャンペーンを実施。健脚コース（目標：１日１万歩）と一般コース（目標：１日5,000歩）があり、５人１チームで励まし合いながら目標達成を目指す。同社からも、100チーム以上が参加しており、東藤さんは健脚コースに参加。「目標達成チームには、記念品として常備薬セットが贈呈されます。これがとても便利で、皆記念品目当てに頑張っています（笑）」。

チームは上司・部下・部署も関係なく自主的に組まれ、同じ目標を持つことや、打ち上げ等がコミュニケーションを図るよい機会となり、普段の仕事が円滑に進む関係性も築けているという。

衛生管理者と人事担当を兼務する東藤さんは、同グループの経営理念である『忠恕（ちゅうじょ）（真心からの思いやり）』を心に、「『飴と鞭』に例えるなら、母性的な指導を行う健康づくりセンターが飴役、厳しく父性的な指導を行う私たち人事は鞭役です。うまく連携・調整して、社員が元気に幸せに働ける環境づくりをしていきたいです」と、グループ全体の職場環境向上に対する強い思いを語った。

**会社概要**

両備ホールディングス株式会社
設　　立：平成 19 年
従 業 員：3,600 人（子会社含め）
所 在 地：岡山県岡山市